
心靈写真

_瑠姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心靈写真

【著者名】

ZZマーク

27936Z

【作者名】

瑠姫

【あらすじ】

修学旅行のとき撮つた写真に…

「私たちは修学旅行でF県に来ていました。」

「ハイ、チーズ」

4人で撮つてもらつた写真。

それが、あんな恐ろしいことになるなんて思つてなかつた。

ちょうど1週間前のこと――

1日目はクラス行動で堅苦しい説明を聞きながら名スポットを廻つて

今日、2日目は自由行動になつていた。

自由行動といつてもクラス内で好きな子とグループを作りそのグループで話し合つて計画を立てまわる。

私はいつもの仲良し4人グループと組む事になった。

計画を適当な観光所に決めて

ついに修学旅行2日目になつた。

「はいそれでは集合時刻を守つてー自由行動開始ー

わーっと学年全員がグループの子のところへ行く。

私はすぐ同じグループのこのところにたどり着けた。

「よし、最初のところに行こー。」

4人一緒に歩き出した。

戦国時代の武士のお墓だつたり

古きよき伝統のモノが飾られてるっこだつたり

いろいろ見た。

あつという間に時間は過ぎて

残り時間は1時間ぐらい。

次のところに行くため

私たちはバス停でバスをまつた。

バスを待っている間、ベンチに4人腰掛けた。

「次どこ行くんだっけ？」

バッグから計画をメモした紙をとり、見る。

「滝だよ滝！！」

そうだ。

F県には自然災害のときにできたとかの有名な滝があつて

スゴイ名所らしい。

「あ、バスきた。」

バッグを持ちベンチからたつて

4人はバスに乗り込んだ。

バスに揺られ10分ほど。

「着いたーー」

バスから降りると

自然豊かな水所。

大きい滝があつた。

「空気が澄んでるねえ」

「でも時間おしてるよ~」

そうだ。

計画より10分ほど遅れている。

「んじゅ [写真撮つても] らつて帰りつか

リーダーが言つてカメラを取り出す。

「あ、撮つてもらつていいですか？」

近くを通りかかったおばさんに頼む。

滝をバックに4人ピースをして撮つた。

「ありがとうございますー」

お礼をいい、ちょうど着たバスに乗り込み集合場所に急いだ。

自由行動の後はお昼を食べそのまま学校に帰り

解散となつた。

少しだけ修学旅行は無事終わった。

鞄から写真ケースを取り出し一枚一枚見ていく。

リーダーが言った。

仲良しグループで集まっていたとき

「見よつて……」

「修学旅行のときの写真、現像できたよ

5日後。

「はは…あれ？」

「ん？あ、それ滝の[写]真じやーん」

ハリコト落ちた与真。

それは滝で撮った写真だった。

「もう落ちたよ… キャアーーー！」

拾いかけたコガ悲鳴をあげる。

「どうしたの？」

震える手で指差した写真の4人。

4人の「ひびき」悲鳴をあげた「ひびき」の後ろには

黒い女の「ひびき」がいた。

「なにこれ……イタズラ?」

「やめてよ……」

「嫌だ!…あたしじゃない!…!…!」

悲鳴をあげた「ひびき」は泣き出しちゃった。

「大丈夫だよ…」

慰めてくるけれど、怖い。

心靈[写真]…なんだよね

そのとき一時間目の始まりを告げるチャイムが鳴った。

泣いたままそのまま席についた。

先生が入ってくる。

私の前の席の子はさつさと悲鳴をあげた。

心配になつてこゝそり声をかけてみた。

「ねえ…大丈夫?」

反応はなかつた。

そのかわり

グラリと身体が揺れたかと思つと

バターンと音をたてて倒れた。

「…え？」

「キヤーッ！…！」

Yの隣にいた女子が悲鳴をあげる。

先生が慌てて駆け寄る。

Yは目と鼻と口から血を流していた。

「先生…ひよひよ…」

「死ん…る」

先生は静かに待つてると叫ぶと

教室を急いで出て行つた。

静まりかえる教室。

心配で心配で仲良しグループのリーダーのほうを見た。

一番廊下に近い席だ。

リーダーは手をぎゅっと握り締め見つめていた。

だからじつと見ていても田舎ではない。

震わめて震えている。

と思つと。

スクッと立ち上がり

窓ガラスに向かつて猛ダッシュしててきた。

「キヤ――――――――――――――――――

窓ガラスは粉々にわれ

リーダーは窓の外に飛んだ。

ズシン、と音がした。

落ちた…。

悲鳴で教室が埋まつた。

Yはどうなつたの？

リーダーは…死んだの？

リーダーが飛んだあとを見ると

一枚の紙切れが落ちていた。

拾い上げてみると

やつきの心靈[アヌ]真。

女の子がリーダーのところへ移動している。

「…嘘でしょ…」

後ろから声がしてバッと振り向くと

仲良しグループで生き残ったもう一人の」。

「嫌…嫌…嫌…嫌…死にたくない…！」

狂ったように叫びだす。

教室中はそれどころではなかった。

救急車が着て人を運び出す。

リーダーの元にもたくさんの先生が集まっているようだった。

隣で暴れまくる」。

私はそれを涙を流しながら見てているだけだった。

言葉ではない言葉を発してブルブルと震えモノを投げつける」。

しかしピタリと止んだ。

意を決したように焦点の合っていない皿を窓に向けた。

「そうよ……殺されるくらいなら………」

そういうて飛び散ったガラスの破片の大きいのを手に取り

喉にやつた。

止める間もなく

なんの躊躇もせず

」の血であたりは染まつた。

あたしだけ生き残つた

写真に手をのばす

黒い女の子は写真のなかのあたしの後ろにいた

振り向くと

「早く死ねよ

黒い女の子がいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7936z/>

心靈写真

2011年12月25日15時50分発行